

指導部だより 第16号



注意!! 県内各地でクマの目撃情報!!

10月18日早朝、勝山市の畑で農作業をしていた方が、背後からクマに襲われ、右後頭部などに全治2週間のけがを負いました。また、福井市の路上でもクマが目撃されました。富山市では17日に、クマに襲われたとみられる遺体を警察官が発見したそうです。本校は、自然豊かな山間部に立地しており、クマが出没することを想定して、厳重な注意が必要です。クマによる人身事故を防ぎ、クマと共存するために最も大切なことは、クマと出会わないようにすることです。下記の項目について確認し、クマによる被害にあわないように気を付けましょう。



ツキノワグマ（本州と四国に生息する）
体長：110cm～150cm
体重：80～120kg

【クマと出会わないようにするための準備について】

(1) 自分の存在をクマに知らせる。

- ・山間部の道路を通るときは、クマ鈴やラジオなど、音がでるものを携帯しましょう。
- ・音がでるものを携帯していないときは、声を出したり手をたたいたりして、自分の存在をクマに知らせましょう。

(2) クマの食べ物や生態について知り、クマとの遭遇を避ける。【環境省ホームページ参照】

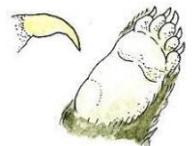
- ・人身事故の多くは、住宅地や農地などではなく、山林などのクマの生息地内で発生しています。クマの目撃情報や出没情報があったところには、近づかないようにしましょう。

(3) クマの新しい痕跡（糞、食痕、爪痕）があった際は、十分気を付ける。

クマの生態

クマは小さな音でも聞き分ける能力（聴覚）、イヌのようにわずかなニオイをかぎわける能力（嗅覚）をそなえた大型動物で、優れた運動能力をもっています。

- ◎木登り、穴ほりのために強い力と鋭いツメを持っています。
- ◎人より速く、時速40km以上で走ることができます。
- ◎水泳も得意で、木に登ることもできます。



【クマに出会ってしまったら】

(1) とにかく落ち着く!!

(2) 騒がず、走らず、ゆっくり後退。決して走ったり逃げたりしてはいけません。

※クマは逃げるものを追いかける習性があります。

※クマを興奮させないことが大切です。クマは、木登りも水泳も走るのも得意です。

※子グマであっても絶対に近づかない。近くに親グマがいます。危険ですから、速やかに立ち去りましょう。

(3) 攻撃が避けられないときは、地面に伏せ、頭を低くして両手で首の後ろを守る!!

※裏面に、環境省のクマ被害防止パンフレット「豊かな森の生活者 クマと共存するために」の一部を抜粋したものがありますので、参考にしてください。

クマと共存するためには～対策と取り組み～

人身事故は、クマの生息地で発生するものと人間の生活域で発生するものがあります。それぞれの状況に合った対策や取り組みを行うことが重要です。

出会わないことが
もっとも重要!



多くの人身事故は、クマの生息地内で発生している



※日本クマネットワーク(2011)で示された人身事故が発生した場所の環境のデータから「不明」を除き、大まかに示した。

クマの生息地で事故に遭わないために

●クマと出会わないために

- 自分の存在を知らせる
 - ▶ クマ鈴やラジオなど、音の出るものを携帯しましょう
 - ▶ 見通しの悪い場所や、沢沿いなどの音が聞き取りにくいところでは、声を出したり手をたたいたりして存在を知らせましょう
- クマの生態や行動についてよく知る
 - ▶ 各季節のクマの食べ物や生態を知ることで、遭遇を避けられる
- 目撃・出没情報のあったところには近づかない
 - ▶ 自治体のHPやビジターセンターのHPなどで公開
(例：日光湯元ビジターセンター
http://www.nikkoyumoto-vc.com/nature/kuma_d.html)
- クマの新しい痕跡(糞、食痕、爪痕など)があった際は十分気を付ける
- 春と秋は事故も多くなる傾向にあるので特に注意



クマ鈴



クマの爪痕

●クマに出会ってしまったら…まずは落ち着きましょう!

(下記は一例です。詳しくは <http://www.shiretoko.or.jp/library/bear/>)

- 距離が離れていた場合(クマがこちらに気付いていない)
 - ▶ ゆっくりと静かに立ち去る
- 比較的距離が近い場合(50m程度)
 - ▶ 両腕をふりこちらの存在をクマに知らせ、クマから目を離さずにゆっくりと静かに後退する。森林内であれば、万が一の突進に備えてクマとの間に障害物がくるようにする。
- 距離が近い場合(20m程度)
 - ▶ クマがパニックになり突発的な攻撃をする可能性があるため、刺激しないことが大切。走ったり大声を出したりせず、クマから目を離さずにゆっくりと静かに後退する。森林内であれば、万が一の突進に備えてクマとの間に障害物がくるようにする。
- クマが突進してきたら(威嚇突進)
 - ▶ 威嚇突進の場合は、途中で止まり後退することが多い。落ち着いて、クマとの間に障害物がくるようにゆっくりと後退する。
- クマが突進してきたら(本当の攻撃)
 - ▶ クマスプレーを目や鼻をめがけて噴射する。
クマスプレーがない場合は、防御姿勢をとる。

子グマに注意!

近くに必ず母グマがいます。
母グマは子グマを守るために
特に攻撃的になりやすいです。



クマスプレーの発射準備!